令和７年度子どもが出合う文化についてのアンケート結果概要

１　目的

「伊賀市文化振興プラン前期実行計画」では、基本方針の１つに「子どもたちが体験を通して文化芸術を学ぶ機会の充実」を掲げており、公益文化団体等と連携して文化に出合い、体験する機会の創出に取り組んでいる。

この取り組みの効果検証や現状把握のための、小中学生（保護者）に文化に関するアンケート調査

２　対象

市立小学校の２・４・６年の児童及び市立中学校の２年の生徒の保護者

人（小学２年：522 人、４年：575 人、６年：631 人、中学２年：654 人）

３　実施

⑴　期間　　令和８年１月８日～23 日

⑵　方法　　各学校を通じて配布したチラシに掲載の ２ 次元コードを読み取り、スマートフォン等から回答

４　回答状況

回答数　580 人　／　対象　2,382 人（回答率　24.35%）

５　アンケート結果

問１　アンケートの対象となるお子さんの学年を選んでください。（きょうだいがいる場合も一人ずつ回答してください）

※令和７年 12 月 15 日現在の在籍数（学校教育課）

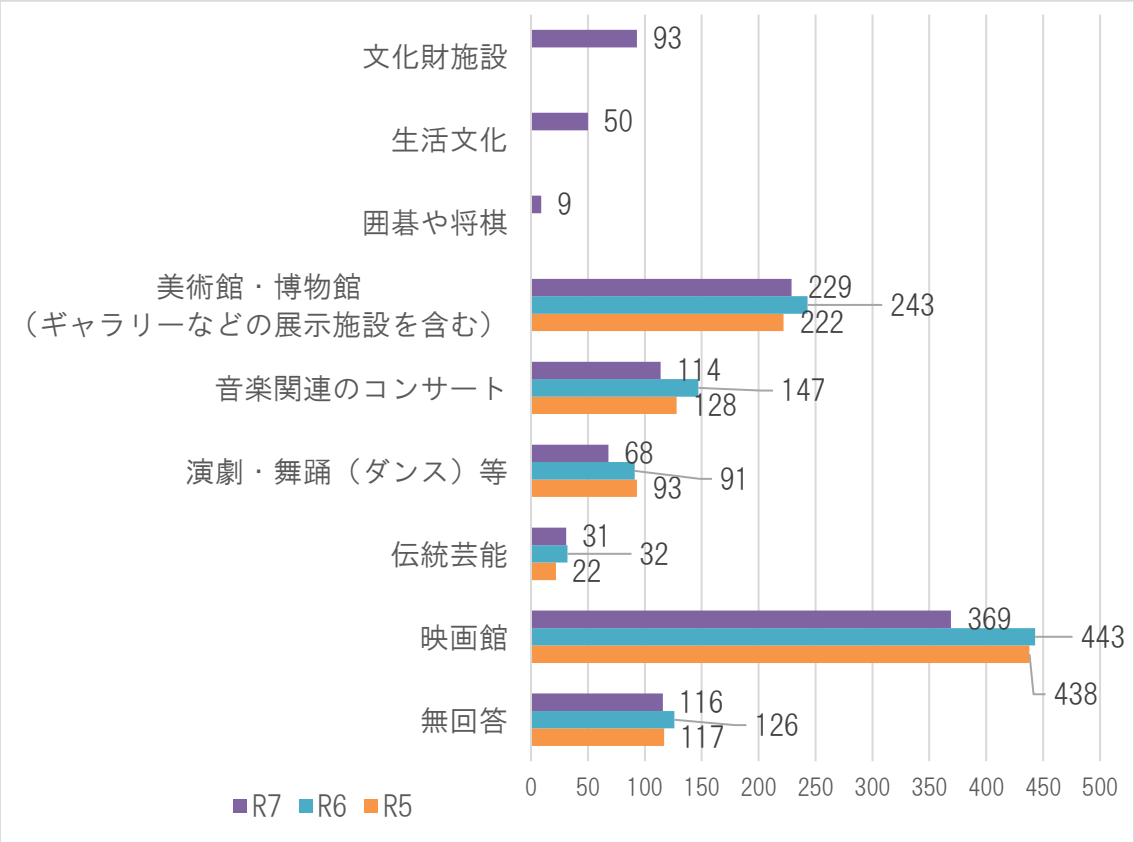
学年	回答人数	児童生徒数※	回答率
小学２年	164 人	522 人	31.42%
小学４年	144 人	575 人	25.04%
小学６年	140 人	631 人	22.19%
中学２年	132 人	654 人	20.18%
合計	**580 人**	**2,382 人**	**24.35 %**

(参考)

令和６年度	695　人	2,551　人	27.24%
令和５年度	671　人	2,652　人	25.30%

問２　お子さんが、この１年間で出向いた市内外の施設・イベントなどがあればすべて選んでください。（複数回答）

単位：人

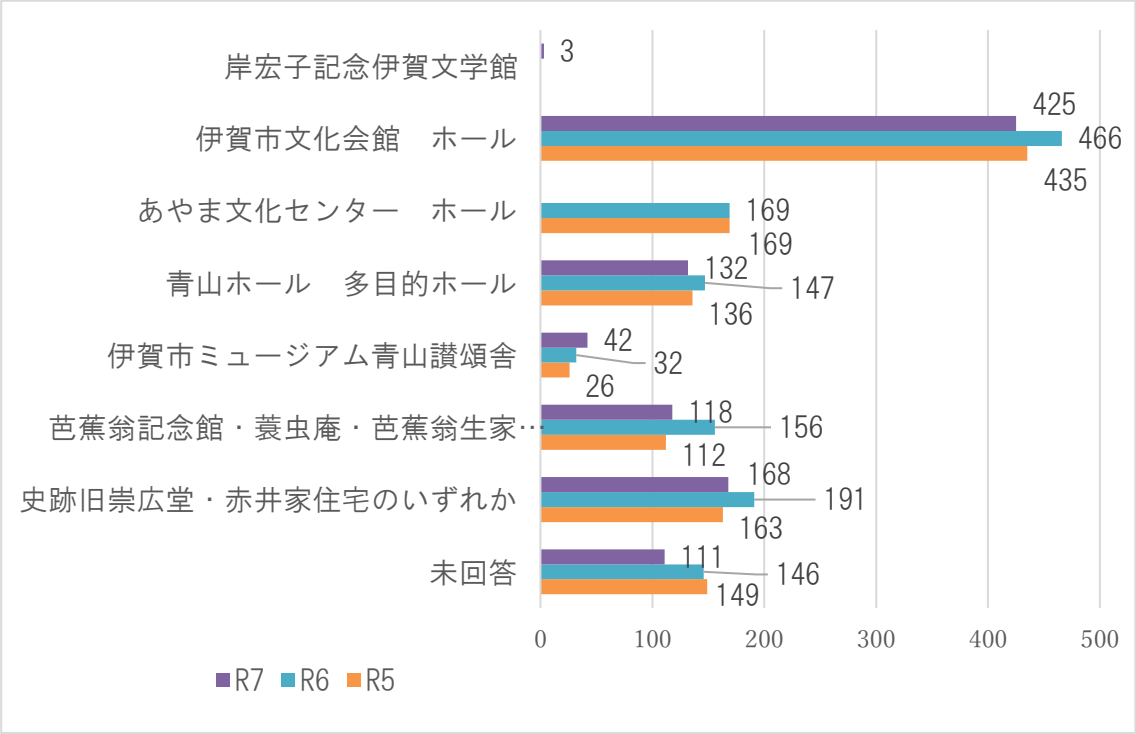


問３　文化芸術に触れて、どんな気持ちになりましたか？　（自由記述抜粋）

・楽しかった。面白かった。ワクワクした。
・感動した。満足した。また行きたい。
・自身もやってみたい。もっと上手になりたい。もっと色んな体験をしてみたい。モチベーションがあがった。
・知らない事が沢山あると感じた。知らないことが分かってうれしかった。好奇心が広がった。初めて知ることに興味が湧いた。
・博物館が大好きなので、いつも夢中になる。泣いてしまうほど感動した。
・管理するのが大変そうだ。そのための工夫に思いを馳せた。
・レベルが高く、難しくてつまらなかった。知らない曲ばかりで眠くなった。

問４　お子さんがこれまでに利用したことのある公共施設をすべて選んでください。

単位：人



問５　小さい頃から文化芸術に触れるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。また理由も教えてください。（自由記述抜粋）

〇家族で学び、体験できる楽しいイベント

・親が興味を示さないと子どもも興味をもたないので、大人も子どもも一緒に楽しめるイベントが良い。兄弟年齢差に対応した内容を。

・家族で参加できるようなワークショップ形式が良い。

〇学校・保育園での文化芸術への取り組み

・共働きなどで時間のない親や、経済的に余裕のない親にかわり、子どもたちが友達と一緒に平等に体験できる機会を与える。

・子どもが文化芸術に触れるのは親の価値観や忙しさによるので、学校や保育園での体験が大事

〇身近に施設があること。

・地区市民センターや公民館などで、休日や放課後に子どもだけで気軽に参加できるイベントがあると参加しやすい。

・土日のイベントは親が仕事の場合、連れて行くことができないので、身近な公共施設で気軽に参加できるイベントがあると良い。

・経済的・時間的・送迎等の保護者の負担が軽減される。

〇その他

・小さなこどもを周囲に気兼ねなく連れていけるイベントやワークショップがあると良い。

・市内の子どもには市内施設の招待券、割引券を出してほしい。

・チラシが多い。チラシのデザイン。何のイベントか、何を展示しているのか、観覧料はどれぐらいかなどの情報が入ってこない。

文化芸術の範囲（文化芸術基本法に基づく区分）

【芸術】

文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術

【メディア芸術】

映画、マンガ、アニメーション及びコンピュータその他の電機器等を利用した芸術

【伝統芸能】

雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他のわが国古来の伝統的な芸能

【芸能】

講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能

【生活文化、国民的娯楽出版物等】

茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化囲碁、将棋その他の国民娯楽、出版物及びレコード等

【文化財等】

有形及び無形の文化財並びにその保存技術

【地域における文化芸術】

地域固有の伝統芸能及び民俗芸能